

みんなで作る子どもの未来2

～子育てに大切な“居場所”をつくろう～ レポート



日時

平成28年2月28日（日） 13：30～16：30

会場

小田原市立三の丸小学校 ふれあいホール

参加者数

42名（うち行政18人）

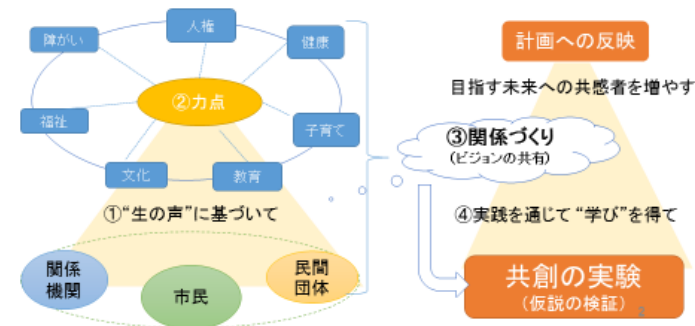
これまでの経緯と今日の目的

- 市の後期基本計画を、生の声から市民とともに創り出す**共創のアプローチ**という手法
- 第1回のワークショップで、これからの**“子育て”を好循環に**導くために大切にしたいポイントが見えてきた
- 市のプロジェクトメンバーが議論を整理し、**いくつかの仮説**が見えてきた
- それらの仮説を検証するために、今日は具体的な**実験のアイデア**を複数出したい
- その中から、取組んでみたいことや手助けできそうなことを共有しながら、みんなで関わるべき**コアになる実験**を見つけていく



共創のアプローチとは？

- ①市民や関係者の実感や背景などの“生の声”に基づいて
- ②横断的な議論から、行政の力点(仮説)を見つける
- ③計画策定を通して共感を広げ、行政と民間の関係をつくる
- ④実験を通じて、現場で共に一歩踏み出すことで学びを得る



仮説における“居場所”のキーワード

子どもにとって

- 自由な遊びを見守る大人と出会う
- いつでもいける“心の居場所”が必要
- 子どもがつながると、大人もつながる
- 学校以外の逃げ場が必要

親や乳幼児にとって

- “私らしく”過ごせるテーマ型コミュニティ
- 生活圏に居場所がほしい
- インフォーマルなゆるい関係が大切
- 気軽な相談ができると、心の余裕に

居場所につながるために

- 居場所があっても来れない人がいる
- 支援策はあっても意外と知られていない
- 届けに行く、迎えに行くアウトリーチ

地域の居場所とは・・・

- 大人が子どもと遊ぶと親も心を開く
- 子どもの居場所をみんなでつくと地域の居場所になっていく
- パパの関わり、役割が生まれるとよい
- 地縁でなくてもテーマ型コミュニティ

学校などの公的な場所

- 地域がつながる拠点が学校に
- 大人と触れ合い、社会に生きる力を
- 様々な体験から、見えない学力を
- 学校に居場所がない子どももいる
- なんらかのソーシャルワークが必要

支援を必要とする子を居場所につなぐ

- 今や子どもの貧困は**6人に1人**と言われている
- 経済的な貧困は、**関係性の貧困**につながりやすい
- 相談する人がいないと、進学への意識が育ちにくい
- 親世代の貧困は、子どもに連鎖する傾向がある
- 小田原市は、生活困窮家庭の中学生向けに、毎週土曜日に**学習支援事業**をしている
- 勉強を教えるだけでなく、NPO法人子どもと生活文化協会との連携で、**農業や生活体験**も実施している
- 参加した子は、成績もやる気も上がった
- 現状の参加者はごく一部である。**親に寄り添い**理解を求めないと、居場所があっても来られない子がいる
- **貧困は外から見えづらい**ので、支援を必要とする児童をどうやって見つけ、どう居場所につなぐかが課題



貧困が子どもにもたらす影響

空腹や学習意欲の低下

勉強習慣が身につかない



「俺なんてどうせバカだから」



【関係性の貧困】
相談できる人がいない



「親に迷惑かけられないから」



塾・習い事に行かない

進学への情報がない

学習以外の活動の様子 (写真はイメージです)

CLCA Facebookページ 若者の居場所「キテミル」から抜粋



課題(2) 通いたいと思ってもらう周知

大々的に周知が難しい

行政

自立支援員

親の理解がないと...

親

「あの子はバカだから無駄」
「卒業したら働かせたい」
「俺も中卒だし...」
「俺が子どものときだって!」

子どもに伝わらない

親が反対

子ども

学習支援に行ってみよう...

訪問しても会えない

子どもの貧困は見えづらい

■ 外見からはわからない

着ている洋服や友達同士の会話からは、その子が貧困に直面しているかどうかはわからない



■ 情報を集めづらい

個人情報保護の観点から、学校でも子どもの家庭に関する情報を得にくい



■ 「貧困」は隠すべきこと、という意識

多くの子どもは、自分の家が貧困だということを他者に言わない



■ 一部の地域で進む「分断」

一部の地域では、貧困世帯や裕福世帯ばかりが同じ学区に集まり、所得で層が「分断」され、他の層の人に出会う機会がなくなっている



支援を必要とする「見えない対象者」の把握が課題

“子どもの遊び”を大切にする場

- H26年度から**市との協働事業**として、市内の公園で**“子どもが主役”**の遊び場を展開
- **参加費無料、出入り自由**で誰でも参加できる場
- 団体スタッフ、地域の大人や市の職員、大人と子どもの架け橋であるプレイリーダーが、**子どもの遊び、失敗のチャンス**を保障し、見守る場
- 遊びでつながる、**世代を超えた交流**の場
- 子どもの遊びを中心に、孤立しがちなお母さん、地域の大人、誰もが過ごせる、その場にいる**一人一人が主役**の居場所
- 学校に居場所がない子たちも、親でも先生でもない**斜めの関係**に、本音をこぼせる場。



pp@seisho

フレイパークに関わる人

見守る大人

地域の大人

子ども

フレイリーダー

中心

青少年

団体スタッフ

市職員

子どもの遊びを大切に見守る大人



一人一人、みんなが主役



大人たちの居場所にもなっている



世代を超えた斜めの関係ができる

地域と共につくる、様々な体験の場

- H24年度から**小規模特認校**として展開
- 全校82名のうち71名が登録。平均約20名が参加
- スタッフは学習アドバイザーや安全管理員で、片浦地域の方が多い
- まずは自主学習をして、終わったら自由遊び
- 竹の子堀り、理科実験、ものづくり教室、バザーなど**様々な体験**ができる
- **家族ぐるみ**で参加するイベントもある
- 地域の団体のほか**市外からの協力**で出張講座も
- **企業による**環境啓発講座も実施している
- 大切なのは**地域の手で共に歩む**こと





自由遊びの時間



出前講座 理科実験教室



パパもはりきる竹の子掘り



企業による料理教室

家庭的な雰囲気での放課後の居場所

- 以前は小中学校の支援員をしていたが、そこでは家庭で緊張して過ごしているためか、苛立った子どもが見受けられた。
- わが子が幸せになるためには、**隣の子も幸せにしなければ**と感じた
- 学童保育所の運営の誘いを受けて、7年前に民間学童保育所ネストを始めた
- 運営費を考え、今年度に**自宅に移転**した
- 子ども達は**家庭的な雰囲気**で宿題をしたり、昔遊びをしたり、絵本を読んだり自由に過ごしている
- **保護者を支える場所**にもなっている
- 学校や地域に開かれた運営をしている





自宅に移転し家庭的な雰囲気



シルバーボランティアによる工作教室も



毎週木曜日は、地域の子どもと一緒に遊ぶ「久野っ子のあそびば」を運営



久野小の農園を手伝うこともある

地域で子育てができる居場所に向けて

- 学童スペースや児童書、プレイルーム、カフェスペース等を活かした民間学童施設を**4月に開設予定**
- やりたい活動があるお母さんたちをコーディネートする「遊び塾 Lei」のメンバーが関わっている
- 利用料金は**月額で1~2万円**を想定している。
- もともと**児童館をつくりたい**という思いがあった
- 将来的には、乳幼児から大人まで集りやすいような、**地域で子育てができる居場所**を目指したい。
- 課題としては、**月謝に見合う付加価値**を習いごとなどでつけていきたい。1日単発での利用も可に。
- 車での送迎などで交通の便の悪さをクリアしたい
- 常勤スタッフを雇用できる**運営費の確保**が課題



事例紹介 5 岩瀬 祐子さんからの説明 14



“居場所”に大切なことや、取組んでみたい実験についてグループでアイデア出し



各グループのアイデアを発表し、全員と共有しました。

異年齢とつながり本音で話せる場を



斜めの関係をつくれる大人の常駐を



今ある施設で安心できる常設の場を



自宅や公民館を使い“食”でつながる



地域の人材や企業と連携しては



どの居場所にも経済の循環が必要





実験の入口となる基本的な考えを整理するため、関心の高いキーワードに1人5票を投票しました。

たとえば・・・

- 居場所にとって大切にしたいこと
- 実験的にぜひ取組んでみたいこと
- みんなで関わるべきこと など



